

第5学年「家庭」学習指導案

授業者 築地 晶子

2月21日(土) 4階家庭科室 9:00～9:40 (話し合い・協議会10:00～11:45)

1 題材名 ミシンで変身 ～ウォールポケットづくり～

2 題材について

題材目標	・ウォールポケット製作の手順や仕組みが分かり、その材料として古布などを集めたり生かしたりする良さを理解し、製作したウォールポケットを身の回りの整理整頓に役立てることができるようにする。製作においては、手縫いやミシン縫い、ポケットにする布の種類や大きさを、目的に応じて適切に選択できるようにする。 ・ウォールポケットの製作計画や身の回りの整理整頓の仕方を考え、主体的に取り組んだり、改善したり工夫したりして実践し、解決しようとすることができるようにする。
------	--

子どもたちは、1～2学期にかけて手縫いで行う裁縫を学び、本題材よりやや先行する形で、ミシンの扱い方を学び始めている。ミシン縫いの練習のために台拭きを作るが、本題材のウォールポケットはデザインから自分で考える最初の作品である。本題材の前には、住まいの領域で整理整頓に取り組み、そのコツを各自でまとめている。そこで、ウォールポケットのデザインを考える際には、自分の整頓に役立てるという視点をもてるようにしたい。持続可能な社会については、家庭科の学習の一環としておにぎりアクションやフードドライブを経験したり、本学学生がゲストティーチャーとして授業に入り、給食に関わるフードロスについて教えてくださったりする機会を得ている。本題材では、廃材となる布を活用するねらいがあるため、事前に保護者や子どもたちには、サイズが合わなくなる等の理由で不要となる布があれば残しておくことを呼びかけている。このような経緯を踏まえ本題材は、「衣や住の生活」と「環境」のそれぞれの関連を図った内容とする。

これから子どもたちが生きる未来は、持続可能な社会について考え、向き合っていくことがますます重要で、社会の仕組みや一人一人の行動について変容が求められることもより当然となるだろう。小学校家庭科としては、その意義や価値を伝えつつ、体験的・活動的な学びを通して、子どもたちの未来に繋がる市民性を育むことを目指している。

3 学習指導計画(6時間目/全11時間)

- 第1次 布のSDGsを知ろう …4時間
- 第2次 ウォールポケットづくり …6時間 本時2/6時間
- 第3次 ふりかえり …1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

ウォールポケットのデザインを実物大の紙面に示し、ポケットの大きさや入れるものに対するゆとりを考えた縫い付け方を確かめたり、デザイン全体の配置を見直したりして、より良い作品にしようとする。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. ウォールポケットのデザインを実物大の紙面に表す ・ここはポケットではなくて、絵や名前を縫いたいと思っていただけ、思っていたよりスペースが広いな。 2. ファミリーで話し合う。 ・このポケットは、ペンを入れるにしても幅が狭すぎると思うよ。もう少し、余裕があった方がよい。 ・空いているスペースに、もう1つポケットを作ってもいいね。 3. 全体で意見交流をする。 ・膨らんだポケットの付け方を考えたよ。	・前時までに、各自がおよそのデザインを考えられるように支援する。 ・ポケット部分は、書く(描く)だけでなく、実際に紙や布をあてるのも良いこととして、より大きさや縫い方、作品のデザインを的確に確かめられるようにする。 ・ファミリーで、各自が考えていること、悩んでいることなどを共有し、視点を確かめながら感想やアドバイスを伝え合うようにする。 ・ポケットの付け方は子どもの工夫を全体で共有する。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

小学校家庭科における持続可能な社会の学習について、特に布(「衣」領域)に関する授業での扱い方や工夫について、児童の様子を踏まえて考えたい。